

坂東地域アグリ通信



平成29年10月20日

坂東地域農業改良普及センター 発行

Tel : 0297-34-2134 Fax : 0297-34-3291

JA茨城むつみで新品目タマネギの栽培が始まりました

JA茨城むつみでは、国内産需要が高まっている加工用タマネギを新品目として導入し、今年より栽培を開始し産地化を目指しています。

8月28日（月）にJA茨城むつみ本店においてタマネギ栽培講習会を開催し、参加した生産者やJA営農指導員等に対して、JA全農いばらきと普及センターから、土壌診断結果に基づく施肥管理や、病害虫・雑草の防除等、栽培方法について説明を行いました。

9月下旬には、苗を生産する生産者（坂東市1名、五霞町2名）がは種を行い、10月5日（木）に関係者でほ場を巡回したところ、発芽の揃いはよく、11月中旬の定植に向けて順調に生産がスタートしました。

今年JA茨城むつみ管内の古河市、坂東市猿島地区、境町、五霞町では、19名、約6haでタマネギが栽培されます。生産者、関係機関一体となって、産地化に向けて取り組んでいきます。



坂東市猿島4Hクラブが販売活動を行いました

10月8日（日）、坂東市逆井の猿島城跡公園で開催された「第28回ふる里さしま古城まつり」内の「さしまふれあい農業祭」にて、坂東市猿島4Hクラブが販売活動を行いました。猿島4Hクラブでは当イベントに毎年参加しており、4HクラブのPRや地元消費者との交流を図っています。今回はクラブ員が栽培したネギを添えた、うどん・そばとサツマイモの販売を行いました。



当日は好天にも恵まれ、会場には多数の来場者があり、猿島4Hクラブのブースにも多くのお客さんが詰めかけました。特にうどん・そばは人気が高く、昼過ぎには完売することができました。

普及センターでは後継者育成のため、今後も4Hクラブの活動を支援していきます。

農業には若さがある！

このコーナーでは、若手農家を訪問して農業に対する思い等をインタビューします。今回は、境町大歩の石山 康宏・奈幹(やすひろ・なみき)さん夫婦をご紹介します。石山さん夫婦は、石山製茶工場で茶農家の後継者として活躍されています。

○どうして就農しようと思ったのですか？

康宏「就農は子供の頃から半ば決まっていたようなものですが、幼い頃から、お茶づくりに多少の興味はありました。」

奈幹「結婚を機に就農しました。」

農業への興味・関心は元々ありました。」

○就農してから気持ちの変化はありましたか？

康宏「家業に対して真面目に向き合うようになりました。」

奈幹「お茶というものの奥深さに魅了されてしまいました。」

○今頑張っていることや心がけていることはありますか？

康宏「味覚や香りの感性を養うために、様々なお茶を飲み比べています。」

奈幹「『ただ作る』だけではなく、お客様がどのようなシーンでお茶を飲むのか、飲みたくなるのかを考えるようにしています。」

○農業の魅力やつらいことは何ですか？

康宏「魅力は、栽培から製造、販売まで自分で行えること。欠点は気候に左右されること。」

奈幹「魅力は四季を肌で感じることができること。あとは主人と一緒に。」



○これからの目標はなんですか？

康宏「栽培・製造方法によって差別化や付加価値を創出していきたいです。」

奈幹「(急須で入れた)お茶を飲まないと言われている世代の方にも興味を持ってもらえるような商品作りと、『さしま茶』の認知度アップのためPRしていきたいです。」

○最後に一言お願いします。

康宏「自分の目指す農業を実現させるため、また、消費者の方に求められるようなお茶を提供できる生産者になるために、努力をします。」

奈幹「濃く、まろやか。渋みから甘味へ変化するお茶…。是非一度、『さしま茶』を飲んでみてください。」



(左上)さしま茶と
レモンマートルの
ハーブティー
(右上)さしま
微粉末緑茶
(左下)『あさつゆ』
ティーバッグ

11月 土壌診断実施日のお知らせ

土づくり推進のため土壌診断を受け付けています。個人等の農家の方が対象です。

11月10日(金)

11月24日(金)

※実施日は変更になることがありますので、ご了承ください。また、結果のご連絡には数日かかる予定です。

編集後記

今月号は、「農業には若さがある！」のコーナーが復活しました。

いばらきで有名な、さしま茶。私も、今回のインタビューで更に興味がわきました。お茶の世界は深いです。おいしいお茶が淹れられるようになりたい…。(鹿島)

